

第1回研究授業

6月5日に行われた第1回 校内研究授業では、「魅力的なゴールの設定」を軸に単元設計を行い、月野先生が授業をしてくださいました。前日に遠足・授業研当日の午前中には体力テストと大変なスケジュールの中、本当にありがとうございました。子どもたちが主体的に学ぶ姿をたくさん見ることができました。事後アンケートに寄せられた子どもたちが主体的に学ぶ姿を紹介します。

【ふり返しアンケートから】

- ・交流後に4象限の自分の場所を移動させているところ。
- ・どの子も自分の言葉で答えを書こうとしたり、交流するときも自分で相手を見つけて、話をしてしていた。
- ・単元のゴールに向けて、粘り強く活動に取り組んでいたこと。そのための授業の導入の工夫が子どもたちが授業を進めていく原動力になっていたこと。
- ・何度も全文プリントを見返し、叙述から自分の考えを書く姿。友だちと交流した後、自分の考えと比べて再度考えを書こうとする姿。
 - ・授業が終わった際に、45分一瞬やった！というつぶやきが聞こえたとき。
 - ・友だちとの交流で、自分の考えが変わったことを認識し、意思表示していたこと。

粟子先生のお話から

討議会では「魅力的なゴールの設定」について、「誰がいつどのように設定するのか」（方法）「誰にどのような力をつけたいのか」（目的）という二つの視点が大切であることを教えていただきました。また、ゴールの設定の仕方について、具体例を交えて説明いただきました。付箋を使っての実践も紹介していただいたので、今後の授業づくりにおいてぜひ取り入れていただきたいと思います。



次回、研究授業にむけて

授業者である古賀先生から、次の研究授業に向けて

- ・「共同注視」による対話の質的向上
- ・学んだことを表現したいと思えるような価値づけを行うための見取りの工夫

を意識して取り組んでいくことが共有されました。授業者である古賀先生だけでなく全ての先生方が、各学年の子どもたちの実態から具体的な取組を考え、日々の授業の中で実践を積み重ねていきたいです。